

⇒内容理解の活動

疑問詞を効果的に用いて、日本語で言い換えることなく文構造の理解へ

⇒手順

段階	指導内容	生徒の学習活動	備考
本文解説	<p>テキスト文</p> <p>The history of tofu started in Japan a long time ago.</p> <p>T:S1, The history of tofu started <u>where</u>?</p> <p>T:Very good! Let's move on to the next.</p>	S1: In Japan.	←できるだけ早く次の文章へ進む
	<p>テキスト文</p> <p>The Japanese created various ways of using soybeans.</p> <p>T:S2, The Japanese created <u>what</u>?</p>	S2: Various ways of using soybeans.	

⇒ここに注目

- ・5W1Hの疑問詞を通常の語順の疑問文で用いるのではなく、目的語や句の箇所そのまま入れて用いる。
 ※疑問詞が本来もっている「足りない箇所」を埋める性質を利用することでネイティブの感覚を少しでも身に付けることができる。
 ※初期指導で生徒にこのパターンを示していれば、無理なく導入できる。

Target 文 I love a cat.

T: I love what?

S: A cat.

- ・教科書脚注に掲載されている質問より気軽に内容理解の点検ができる。